
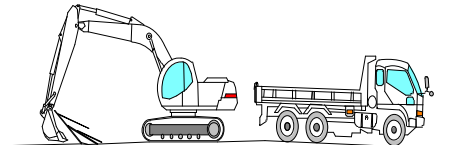
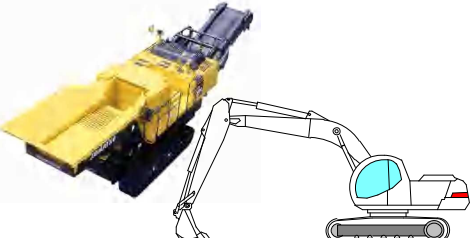


従来技術施工比較表

様式4

技術名：再生クラッシャーラン製造工(脱着式)

	新技術 再生クラッシャーラン製造工(脱着式)	従来技術 処理施設へ運搬・処理	従来技術 骨材再生工(自走式)	従来技術
工法概要	・市場に出回っているバックホウ(山積0.8m ³)に、アタッチメント式の再生骨材製造機(脱着式)を取付け、現場内に於いて再生骨材を製造し、現場内利用を図る。	・バックホウでダンプトラックに積み込みを行い、中間処理施設へ運搬・処理を行う。現場で使用する路盤材、基礎材については購入する。	・自走式破碎機をコンクリート塊の堆積仮置場に設置し、バックホウ(山積1.0m ³)にて投入し、再生骨材を製造し、現場内利用を図る。	
概略図				
経済性	・269,000円/100m ³ 場合により殻小割工が必要	・886,400円/100m ³ 場合により殻小割工が必要	・277,000円/100m ³ 場合により殻小割工が必要	
評価		-		
工程・工期	・1台当り破碎施工能力 42m ³ /日	・土砂搬出施工能力 118m ³ /日(100m ³ /3.37日*4台) 碎石搬入は帰路と仮定	・1台当り破碎施工能力86m ³ /日	
品質	・使用用途によっては、骨材粒度試験、一軸圧縮試験が必要	・購入材の為、安定している	・使用用途によっては、骨材粒度試験、一軸圧縮試験が必要	
出来形	・0~40mmに破碎 使用用途によっては、骨材粒度試験、一軸圧縮試験が必要	・購入材の為、安定している	・0~40mmに破碎 使用用途によっては、骨材粒度試験、一軸圧縮試験が必要	
現場条件	・バックホウ(山積0.8m ³)を設置し、作業する面積が必要	・ダンプトラックの運搬路の確保、選定が必要	・コンクリート塊の堆積仮置場の確保及び、バックホウ(山積1.0m ³)と自走式破碎機械の設置し、作業する面積が必要	
設計条件	・コンクリート塊寸法w350mm*t350mm以下 ・作業後に分別された金属クズの処分方法を考慮が必要	・ダンプトラックの運搬路の確保、選定が必要	・コンクリート塊寸法400mm以下 ・堆積・施工ヤードの確保、ダンプトラックの運搬路の確保・選定が必要 ・作業後に分別された金属クズの処分方法を考慮が必要	
安全性	・操作が簡単で、特殊運転手1名+特殊作業員1名で作業を行い、主に現場内で処理されることから安全性は高い	・ダンプトラック運搬で公道を走行する際に周知されていない一一般人との交通事故の危険性がある	・ダンプトラックで仮置場まで運搬する際の交通事故の危険性がある ・指定ヤード内での作業となるので破碎作業の安全性は高い	
NETIS番号	-	-	CB-990048	
備考	・骨材再生工法(アタッチメント式)では、コスト、沿道環境障害、道路ライフコスト、排気ガスの面で低減が図られ、従来工法と比べ特に優れている	-	-	
総合評価		-		